

最優秀審査員賞

(山梨県南都留郡)  
河口湖南中学校 二年  
森 桜士

「僕がオトシブニの母親になったつもりで、  
生まれてくる、会えることのない子どもへ」



大卒の初夏、雑林で見た  
 オトシブニという小さな虫の幼虫。  
 平安時代や 鎌倉時代に  
 相子に産卵させたに子紙を産に置いたものを  
 「おじい」としていたそうだが、  
 この産卵がわしと木の巻物に似ているから  
 この名前がついたようです。  
 産卵をやる時期は  
 5月中旬頃からただの1ヶ月。  
 今年の初夏、偶然オトシブニを見つけたので、  
 じと観察していたら、  
 生まれてくる自分の子じいの為  
 何時間もかけて 見事な産卵を  
 産んで上げました。  
 何を思っただけか、  
 産卵をしながら、  
 一生懸命に  
 働かしているのだから  
 と感動しました。  
 オトシブニの親にならな  
 いつもりで、子紙を  
 書いてみました。

これから生まれてくるおのこへ  
 今のうちに、あなたの手紙を渡しておこうと  
 思います。  
 本は友の初め、またやわらかな言葉で  
 その様子を書いてみました。  
 たくさんの葉を食べて、吐息をし、  
 これからは、とんだ葉を産みました。  
 あなたが、この様子から、天気に飛出してくる時まで  
 寝たりせず、外敵にも罷れられず、  
 あなたが安心して大きくなるように、  
 丁寧に、巻を上げました。  
 あなたが、この産卵の様子から、この中から、なに世界へと  
 出てくる頃には、この産卵も、産んでおきます。  
 その頃にはもう、私は、みんな、お前は、あなたに、受け継ぎます。  
 こうやって、親、子、孫と命は、つながっているのです。  
 生まれてくるあなたを抱くことは、出来なけれど、  
 せめてこの様子から、お母さんの代わりと  
 思っ、おのこを想像して、くだらない  
 世界の、明るい、素敵な  
 素敵な、百足です。

大切なあなた  
 の母さんより、